

2019

紙パックリサイクル

年次報告書

Paper Carton Recycling Annual Report



捨てるより
リサイクルが
気持ちいい。



発行にあたって

日ごろは、全国牛乳容器環境協議会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。紙面からで恐縮ではありますが、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は7月の西日本地区での集中豪雨、夏から秋にかけて多くの台風の接近や上陸に加え、9月に発生した北海道胆振東部地震とそれに伴う北海道地区の大規模停電など、天災による直接・間接の大きな被害を受けた年となりました。一方、米国をはじめとした自国優先主義政策や米中の貿易での対立など、国際経済においても先行きが見通しにくくなっております。

国際的な環境問題としては、海洋ごみの問題がマスコミで取り上げられ、昨年6月に行われたG7シャルルボワ・サミットでは「G7海洋プラスチック憲章」に日本と米国は署名しませんでした。本年、日本で開催される予定のG20で日本として、前向きな資源循環政策を提示することになると思います。主にプラスチックの問題ではありますが、紙パックについても、私たちは「一人ひとりが環境を考え、行動していく社会」を目指して、紙パックリサイクルの普及・拡大に向けた取組を続けていかなければなりません。

紙パックリサイクルの指標である紙パック回収率は、調査開始以来、順調に向上してまいりましたが、ここ数年は伸び悩み傾向となり、2017年度は前々年度と同程度となっています。

私たちは、回収率を高める対応として、各委員会制度の運営充実と専門委員の活動に注力してまいりました。総務委員会では、自治体の環境担当部署を訪問し、より効果的な広報活動や回収の仕組み作りに向けた意見交換、消費者啓発のための協働取組などを行っています。広報委員会では、継続してホームページの改修や展示用パネルの内容充実を図り、またごみ袋へのリサイクル情報掲載やAR(拡張現実)技術の活用など、新しい手法を用いて紙パックリサイクルの周知活動に取り組んでいます。イベント委員会では、6月のエコライフ・フェア、12月のエコプロへの出展、地域の大規模量販店における紙パックリサイクルイベントなどにより、多くの市民の皆様に、分別排出・回収の呼びかけを行っています。



全国牛乳容器環境協議会

会長

城端 克行

また、自治体との連携による紙パックリサイクル講習会、全国の小学校への出前授業も継続開催して、小学校の環境教育の中で「大事な紙資源、もったいない」を学習できる機会としています。支部組織委員会では、全国の会員がかかわる地域の環境イベントにおいて、来場者に紙パックリサイクルを啓発するための展示・クイズパネルなどを利用いただける体制を整えた結果、恒例行事として定着したイベント件数が増えています。ミルク段ボール製紙パック回収ボックスの希望拠点への配布も継続しております。

その他の取組のご紹介を含め、1年間の活動内容を総括してここに「2019紙パックリサイクル年次報告書」をまとめましたので、是非お目通しいただき、ご意見・ご指導をお寄せいただければ幸いです。

市民団体の「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」様をはじめ、様々なステークホルダーの皆様との協働も進めてまいります。会員の皆様におかれましても、今年にも増して更なるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

2019年1月

回収率向上アクションプラン

全国牛乳容器環境協議会(以下、容環協)では、「2020年度に回収率50%以上」を目標として掲げ、紙パックの回収率向上を目指しております。

具体的な取組は以下のとおりです。

《目標》
紙パック回収率 **50%以上**
2020年度

- 自然の恵みを大切に、次世代の子どもたちが安心して暮らせる地球環境を継続的に維持していくため、紙パックリサイクルに係るすべての関係者との連携を強化し、回収率向上のための自主的活動を促進します。
- 再生可能な資源である紙パックを良質な資源として有効に活用することにより、資源の節約と環境負荷の削減を図ります。紙パックのリサイクルを通して資源の大切さを伝える活動を展開します。

【主な取組】

- 1.回収率を高める場づくり
 - ①ステークホルダー会議などの充実
 - ②地域特性に応じた地域会議の開催とフォロー
 - ③地域の環境活動(紙パックリサイクル講習会の開催(全国牛乳パックの再利用を考える連絡会(以下、全国パック連)と連携))などへの参加と情報共有

2.様々な生活の場における回収促進

- ①生活の場に根ざした回収力向上(紙パック回収ボックスの提供、環境メッセージ広告を紙パック商品に掲載する環境キャンペーンの実施、工場見学者に対する紙パックリサイクル啓発の実施)
- ②牛乳1000ml以外(500ml、200mlなど)の回収促進
- ③紙パックとしての分別の促進
- ④再活用から資源価値の高い再生紙へ
- ⑤屋外や店舗で飲まれる紙パックの回収促進

3.教育や学習の場における活動の促進

- ①教育・学習とリサイクルの協調(小学校での牛乳パックリサイクル出前授業の開催(全国パック連と連携)・牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクールへの協賛)
- ②学校給食用牛乳パック(以下、学乳パック)の回収率向上

4.コミュニケーションの充実

- ①ステークホルダーとの対話と協調
- ②再生品の利用促進
- ③様々なイベント等への参画
- ④インターネットなどによるコミュニケーション(容環協HP・牛乳パックン探検隊HP)
- ⑤国際的連携の推進



CONTENTS

活動トピックス

- 「プラン2020」……………2
- 環の縁結びフォーラム……………3
- 紙パックリサイクル促進地域会議……………4
- 製紙メーカー意見交換会……………5
- リサイクル促進意見交換会……………6
- 紙パックリサイクル講習会……………7
- 牛乳パックリサイクル出前授業……………8
- エコライフ・フェア／エコプロ2018……………10
- 牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール……………11
- その他の活動……………12

活動報告ダイジェスト

- 2017年度 紙パック回収率……………14
- 2017年度 紙パックマテリアルフロー……………16

2018年度活動報告

- 小売事業者のリサイクル状況……………18
- 福祉施設のリサイクル状況……………19
- 市町村回収・集団回収の状況……………20
- 学校のリサイクル状況……………22
- 製紙メーカーのリサイクル状況……………23
- 紙パックのリサイクル学……………24
- 紙パックを取り巻くダブル循環……………24
- 全国牛乳容器環境協議会の概要……………26
- あゆみ……………26
- 容環協の発行物……………28
- 会員一覧……………29



「プラン2020」 飲料用紙パックリサイクル 行動計画

アクションプランに基づいて、4つの委員会で活動を推進しております。2018年の主な活動は以下のとおりです。

1.総務委員会

(1)回収力を高める場づくり

様々なステークホルダーにご参加いただき、2月に東京で「飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会」、10月に大阪で「紙パックリサイクル促進地域会議in京阪神」を開催しました。回収率向上に向けた取組事例、紙パックリサイクルの現状と課題について情報交換・意見交換を行いました。

(2)様々な生活の場における回収促進

「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」の補完として、古紙原料問屋及び製紙メーカーへの調査を実施しました。また注ぎ口付き紙パックリサイクルの課題について議論を進めました。

(3)教育や学習の場における活動の促進

学校を核とした回収力強化の一環として、引き続き出前授業時に学乳パック回収についてヒアリングを行っています。

(4)コミュニケーションの充実

「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」の補足資料として、インターネットによる「家庭における紙パックの再活用の実態調査」の結果を容環協のホームページに掲載しました。

2.広報委員会

(1)普及啓発事業

①インターネットメディアの活用

スマートフォンによるAR(拡張現実)を応用した新しい啓発コンテンツを制作しました。

②新規広告媒体の活用

町田市のごみ袋外装に紙パックリサイクル啓発の広告を掲出しました。

③「紙パックリサイクルほんとはなし」の改訂

全国パック連と協力して新しい紙パックリサイクル活動事例紹介を盛り込み、端切れのリサイクル推進も訴えました。

④年次報告書2019の企画・編集に取り組みました。

3.イベント委員会

(1)紙パックリサイクルを活用した環境教育と普及啓発

①全国パック連と協働して小学校9校で出前授業を開催、全国パック連・平井代表の講義や手すきはがきづくりを通して、計623名の児童に環境教育を実施しました。また、同様に自治体や店舗6か所で行ったリサイクル講習会を開催しました。

②エコライフ・フェア2018、エコプロ2018など地域環境フェアに出展しました。

(2)牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール

応募の少ない6県の小学校全校と札幌市の全校にDMを送り参加を促すなど、裾野拡大に努めました。

4.支部組織委員会

(1)地域の環境活動などへの積極的支援及び参加

①容環協会員の地域事業所が容環協の各種パネルや冊子などを活用して独自に紙パックリサイクル啓発活動を実施し、自治体などの地域の環境活動にも積極的に参加しました。

②自治体や地域の乳業協会などと連携し、啓発ツールの貸し出しや再生品(トイレトペーパー)提供を行いました。クイズの回答用紙裏面でのアンケートは継続実施し、得られた情報を調査の参考としました。

(2)メールマガジン発行と拡大

①特色のある地域の取組を掲載し、他地域への水平展開を図り、委員会の支援ツールについても継続して情報発信し活用を進めました。

②容環協のホームページに掲載するとともに、今まで地域会議など容環協主催の会議に参加いただいた方にもお送りするなど、配信先拡大をしてきました。SNSなど新たなコミュニケーションツールが拡大する昨今、メールマガジンに替わる新たな啓発手段の模索を始めました。

国、自治体、NPO、関連企業などが参加し、古紙市場における雑がみ及び紙パックの現状と今後について情報交換がされました。

【環の縁結びフォーラム】11月29日

全国パック連が主催、容環協が協賛する「環の縁結びフォーラム」及び全体交流会がTKP八重洲カンファレンスセンターにて開催されました。今回のテーマは「古紙市場における雑がみ及び紙パックの現状と今後」で、国、自治体、NPO、関連企業など延べ65名の方が参加しました。

主催者の全国パック連・平井代表より、牛乳紙パックは、1985年に市民運動からリサイクルが開始され、有用な資源として認知され回収されてきたが、さらなる回収率向上のための課題としては、①雑がみ、本、雑誌の回収に混入している紙パック、②紙パックの利便性の追求による注ぎ口付き形状の増加、③海外への紙類の輸出環境の変化、であり、これらの古紙市場や紙パックの現状と今後について、情報交換を通じてこれからのリサイクル方法の課題と対策を考える機会にした、との開催趣旨説明がありました。

来賓の容環協・田上副会長より、行動計画「プラン2020」に従い紙パックのリサイクルが継続的に進むよう活動していますが、今日のフォーラムは、全国パック連と長年関わってこられた先輩方や、各方面で連携されている皆様と交歓できる大切な機会であり、「ものの大切さ」や「もったいない」の言葉で繋がる「環(わ)」がさらに強固となる場と思いますと、挨拶がありました。

パネルディスカッションでは、経産省、自治体、古紙問屋、

再生紙メーカーがパネリストになりました。経産省から、古紙主要三種は、新聞、雑誌、段ボールで、飲料紙パックは「模造・色上」に分類されているなど、説明がありました。

自治体からは、少子高齢化が進行し、子ども会、PTA、登録団体数が減少し、集団回収量も減少傾向であるが、分別を徹底するためにはリサイクル排出方法を周知・啓蒙することが大切であると説明がありました。

古紙問屋からは、海外でのミックス古紙輸入禁止の影響で、国内で古紙、紙パックの分別が必要不可欠になってきているが、古紙原料の中で、1%しかない紙パックの回収率が約35%なのは、素晴らしいことであるとお話がありました。

再生紙メーカーからは、注ぎ口付き紙パックは、製紙工場では異物となるために好ましくないが受け入れているものの、今以上拡大していく場合は対応できなくなる可能性もあるとの報告がありました。

工場見学に来た児童は、牛乳パックからトイレトペーパーなど紙製品が作られることを、ポスターや作文に驚きをもって書いており、牛乳パックリサイクルは資源循環の分かりやすいイメージが出来ている、など、様々な現状、課題の報告が活発になされました。

まとめとして、容器の変革、環境情勢変化、少子高齢化などさまざまな社会要因変化の中、リサイクル向上のためには、正しい紙パック分別排出方法を周知・啓蒙・徹底することが重要であること、紙パックそれぞれで関わる人たちの「情報の環、心の環」が大事なことである、と結ばれました。続く全体交流会では、参加者間で活発な情報交換が行われ、盛況のうちに散会となりました。



主催者代表 全国パック連 平井代表



パネルディスカッションの様子

紙パックリサイクル促進地域会議

製紙メーカー意見交換会



各地域での情報交換を通じて、
リサイクルの促進を図る
地域会議を開催。

紙パックリサイクル促進地域会議 in 京阪神

- ◆開催日 2018年10月24日
- ◆開催地 大阪市
- ◆参加者 経産省、農水省、自治体、小売業者、市民団体、乳業メーカー、容器メーカー、回収業者など計48名

【主な報告や問題提起】

- 来賓挨拶として、経産省より、プラスチックの海洋汚染が世界的問題となっているが、様々なごみを減らすこと、環境への対応が重要な課題であり、紙パックは一手間掛けることにより有用な資源として定着していると紹介されました。農水省からは、リサイクル法施行から21年、紙パック回収が定着したのは地道な努力のためとの話がありました。
- 基調報告では、容環協より、紙パック回収経緯、回収率の推移と課題、主な活動内容として、紙パック環境特性を正しく伝え、行動する人を増やすため、出前授業、リサイクル講習会、新たなコミュニケーションの充実に力を入れているなどの紹介をしました。
- 事例紹介では、大阪市より、家庭系より事業系ごみが多いこと、ごみの量は1991年をピークに減少しているが、近年は減少傾向が頭打ち、紙パックについては一手間掛けることを市民にどう伝えるかの課題があるとの話がありました。神戸市では、古紙類は、行政回収は実施せず、集団回収



地域会議in京阪神の様子

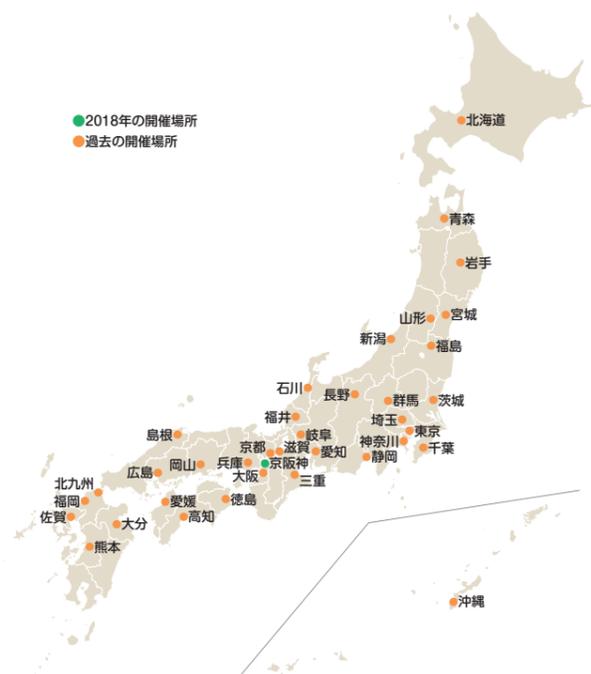
を市として支援しており、団体数は増加しているが、回収量は減少傾向であることが報告されました。宇治市では、紙パックは拠点回収を行うようになってから回収量が増加し、リサイクル推進キャラクター「パックン」が2005年より登場し、子どもたちに大人気でリサイクル活動に活躍しているとの紹介がありました。

- 情報交換会ではまず容環協から、各市の資料分析から推計すると、全国で10万トン以上の紙パックが可燃ごみとなり、更なる取組が必要であるとの認識が示されました。

また小型紙パックの回収状況、注ぎ口付紙パックの排出方法についても各市の現状が報告されました。製紙会社からは、プラスチックの混入については、現状程度では対応できるが、現状設備では、これ以上の増加は対応に苦慮するとの話がありました。そのほか、プラごみ類や、紙パックの輸出に関する情報提供もなされ、容環協としては国内循環の促進をお願いしました。その他、様々な問題や課題が提起されました。

最後に、容環協から、紙パックの啓発活動に容環協を活用していただきたいことをお願いし、紙パックのリサイクルを促進するためには、関係者の協力と情報共有が重要であることを確認して閉会となりました。

地域会議の開催場所



紙パックリサイクルの
現状と課題が
明らかになりました。

【紙パックリサイクルに関わる製紙メーカー意見交換会】

7月10日に全国パック連と協働で、静岡県富士市の「ふじさんめっせ」会議室にて、紙パックをリサイクルして活用している製紙メーカーや古紙回収業者などを招いて、計28名で開催しました。この意見交換会は、紙パック回収量アップを目的に、受け皿となっている製紙メーカーから忌憚のない意見を直接聞き取り、今後の紙パックリサイクル活動に反映させていくことを目的に毎年開催しているものです。

最初に容環協から、2016年度の紙パック回収量は前年度比で若干増加したものの、ここ数年は頭打ちの状態であり、回収量を増やしていくために啓発活動の継続と新たな回収ルートの発掘支援に力を入れていく旨の報告を行いました。

回収した紙パックの入荷量に関しては、なかなか十分な量を集めることはできない、中国のミックス古紙受け入れ中止の影響はあまり感じられない、との報告がありました。



製紙メーカー意見交換会の様子

また、市場のニーズにより注ぎ口付きの紙パックが増加しており、乳業メーカーなどではホームページで開き方を説明したり、お客様相談窓口を通して説明したりして、リサイクルに支障が出ないように対応しています。製紙メーカー側では、注ぎ口が無い紙パックの方が使用には適しているが、ある程度の量であれば致し方無いという考え方が主流でした。

一方、一部の店頭で同時に回収しているアルミ付き容器では未晒原紙を使用しているとの報告もありました。

2018年度に製紙メーカーの紙パック受入調査を容環協が委託した企業より「容器メーカー、中身メーカー、製紙メーカーと立場の違う3者が意見交換する会は、他の容器では見られない。現実的な議論が為されており、感心した。」との挨拶がありました。



ふじさんめっせ

リサイクル促進意見交換会

紙パックリサイクル講習会



関係団体が多数集い、
リサイクルの現状と課題を
話し合う貴重な場に。

【第30回飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会】

2月8日に乳業会館にて、環境省リサイクル推進室、農水省食品産業環境対策室、自治体関係者、流通関係者、市民団体、古紙回収業者、製紙メーカーなど計42名出席のもと、開催しました。

最初に容環協の青山会長から紙パック回収の歴史、2016年4月に策定した「プラン2020」の目指すところと3点の行動目的などを説明し、2点目の環境特性を正しく伝える、3点目の環境を考え行動する人々を増やす、ということについて皆様方より忌憚のない意見をいただきたいとの挨拶がありました。続いて農水省から、紙パックを開いた時に記載してある「リサイクルありがとう」の言葉についてこのような消費者とのコミュニケーションがリサイクルの促進、回収率の向上につながっていくのではないかと、リサイクルすることでごみの削減にもつながることを伝えながら、回収率向上の努力に期待する、との挨拶がありました。

次に取組状況報告として容環協から、活動内容と2016年度の回収率の概要説明を行いました。使用済み紙パックには、廃棄前にまな板などに再利用されるものや他の古紙として回収後に紙パックとして選別、資源化されながらも回収量に計上されないものがあり、これらの扱いについて継続検討していく旨の報告を行いました。続いて4つの専門委員会の活動状況

を各委員長から報告しました。

調査会社からは、2016年度の紙パック全体の回収率は44.3%と前年度より1.2ポイント増加したことに関する詳細内容の説明を行いました。また新たに実施した家庭における紙パック再活用の実態についてのインターネット調査結果の概要報告を行い、再活用した方は12.7%に及んだ旨をお伝えしました。

後半の意見交換では、注ぎ口付き紙パックについての意見が出されました。自治体からは、注ぎ口は切り取ってほしいと周知してきたが、昨年そのままリサイクルできますという容器が出てきて戸惑っているとの意見がありました。これに対して容器メーカー、乳業メーカーからは注ぎ口付き紙パックについて製紙メーカーに問合せを行った結果、皆様リサイクル可能ということを確認し、取り扱いの表記についても検討を継続しているとの報告がありました。古紙問屋からは注ぎ口付き紙パックが入ると製紙メーカーから苦情が来るとの意見がありましたが、注ぎ口の除去装置があるので問題はないと答えられた製紙メーカーもありました。

高齢化社会を迎え、消費者の利便性を考えると注ぎ口付き紙パックは今後増加していくことが予想され、紙パックの回収に携わるステークホルダー間のコミュニケーションがよりいっそう重要になってくると考えさせられる意見交換となりました。

現状を知っていただき、
実際にリサイクルを体験する
楽しい講習会です。

【埼玉県 さいたま市】7月14日

さいたま市の講習会は2018年4月にオープンした「さいたま市子ども家庭総合センター あいばれっと」で開催、児童18名、保護者15名、幼児1名が参加しました。全国パック連・平井代表より、牛乳パックリサイクルが世界でも他に例のない誇るべき活動であることなどのお話の後、手すきはがきづくりを行い、パネルなどにより紙パックリサイクルについて復習しました。

【東京都 西東京市】7月24日

西東京市のイベント「夏休み自由研究2018」において、同市では10回目の講習会を開催、小学校3～6年生の児童43名と保護者14名が参加しました。クイズを交えた講義やDVD視聴後、牛乳パックの手開きを体験し、手すきはがきづくりでは、模様となるすき込み用材料を丁寧にのせ、完成した世界で1枚のオリジナルはがきを手に記念撮影をしました。

【埼玉県 朝霞市】7月25日

今回の講習会は、朝霞市で毎年行われる夏休みの3R（リデュース、リユース、リサイクル）啓発事業に牛乳パックリサイクルを取り入れたもので、小学生34名と保護者10名、幼児5名が参加しました。県内にはユネスコ無形文化遺産に登録された、手すき和紙「細川紙」がある土地柄のためか、和紙の手すきを体験済の子どもたちも厚くて丈夫なはがきが牛乳パックからできることに驚いていました。

リサイクル講習会講義内容

- ・講義 「資源と森林管理について」
「牛乳パックは良質な資源」
- ・視聴 DVD「牛乳パック探検隊」
- ・体験 「手すきはがきづくり(牛乳パックパルプ使用)」
「牛乳パック手開き」
- ・質問コーナー 「リサイクル説明パネル」

【神奈川県 相模原市】7月31日

ごみの減量化キャラクター「分別戦隊シゲンジャー銀河」が活動する相模原市は毎年、夏休みに全国パック連・容環協と共同でリサイクル体験教室を開講しています。今年は橋本台リサイクルスクエアにて、小学生25名、保護者及び未就学児19名が参加、学校で牛乳パックの手開きを実践している子どもたちが手間取る保護者に手ほどきする光景も見られました。

【東京都 中央区】8月25日

中央区立築地社会教育会館において、児童8名、保護者7名、個人1名、幼児1名が参加し講習会を開催しました。講義中のクイズでは子どもたちが元気に手を挙げて答え、注ぎ口付き紙パックの手開き実演も興味深そうに見入っていました。児童も保護者も楽しくつくったオリジナル手すきはがきを掲げて記念撮影を行い、講習会を終了しました。



主催者挨拶 容環協 青山会長



ステークホルダーの方々



平井代表の講義



模型を使った手開き指導



世界で1枚のオリジナルはがき

牛乳パックリサイクル出前授業



子どもたちの学びの場に。
毎年好評の「出前授業」を
全国の小学校で開催。

2018年も全国の小学校で、全国パック連と連携して「牛乳パックリサイクル出前授業」を開催しました。

出前授業講義内容

- ・講義 「資源と森林管理について」
「牛乳パックは良質な資源」
- ・視聴 DVD「牛乳パックン探検隊」
- ・体験 「手すきはがきづくり(牛乳パックパルプ使用)」
- ・質問コーナー 「リサイクル説明パネル」

【東京都 大田区立都南小学校】8月7日

多摩川に近く自然に恵まれた大田区立都南小学校の「サマーわくわくスクール」で4～6年生30名と保護者3名を対象に出前授業を実施。学校の教育目標にある「よく考え行動する子、終わりで仕事をやりぬく子」のように、手すきはがきづくりでは紙パックから再生された高品質パルプに初めて触れて柔らかさと白さに驚き、全員がオリジナル手すきはがきを完成させました。



手すきはがきづくりに興味津々

【山梨県 南アルプス市立白根百田小学校】8月30日

西に南アルプス、南に富士山を一望する南アルプス市立白根百田小学校では、4年生2クラス49名を対象に出前授業を行いました。手すきはがきづくりを終えた後、7月の西日本豪雨で被災した広島市の小学校に子どもたちからお見舞いのはがきを送ることになり、先生からは「今日学んだ紙パックリサイクルについて、おうちでも伝えてください」との指導がありました。



平井代表の話真剣に聞く児童

【広島県 広島市立八幡東小学校】9月11日

「かしく やさしく たくましく」を「みんなの目標」に掲げ、創立40年目を迎える八幡東小学校の4年生4クラス106名を対象に実施した出前授業。手すきはがきづくりでは、子どもたちは初めて触れる牛乳パックのパルプに驚き、保護者の皆様もはがきづくりの方法について積極的に質問し、「家庭でもやってみます」とリサイクルに前向きな姿勢を示されていました。



授業を受けるたくさんの児童・保護者

【愛知県 弥富市立白鳥小学校】9月26日

自然豊かな環境の中、白文鳥の産地であることに由来する校名の白鳥小学校。出前授業には4年生の児童47名と教諭2名の計49名が参加しました。前半の講義では初めて聞く「リサイクルのお話」に驚き、後半の手すきはがきづくりでは世界に1枚のはがきを作った喜びで、みんな自慢げな笑顔でした。「今日あったことを家で話すんだ」という嬉しい声も聞くことができました。



出来上がった手すきはがきと記念撮影

【福岡県 北九州市立星ヶ丘小学校】10月4日

環境教育として「プルタブ収集やペットボトルのキャップ収集に努める」を積極的に実践する、リサイクルへの意識の高い星ヶ丘小学校。出前授業は4年生2クラス76名を対象に行いました。講義終了後の手すきはがきづくりでは、児童たちは高品質な再生パルプに直接触れて柔らかさと白さに驚き、はがきが仕上がっていくにつれ、歓声や驚きの声が上がりました。



パルプの柔らかさと白さに驚き

【愛知県 尾張旭市立本地原小学校】10月10日

昭和29年開校と長い歴史を有する本地原小学校の出前授業は、4年生94名を対象として体育館で行いました。ちょうど体育の時間だった5年生は昨年体験した出前授業の内容をよく覚えてくれており、子どもの頃からリサイクルの意識を持ってもらうことの重要性を改めて認識しました。手すきはがきづくりでは、牛乳パックからはがきができる工程を皆とても楽しんでいました。



みんなそろってはがきと記念写真

【東京都 多摩市立諏訪小学校】11月2日

「強く かしく たくましく」が教育目標の多摩市立諏訪小学校では3年生57名を対象に出前事業を行いました。紙パックを「洗って、開いて、乾かして」トイレトーパーなどに再生できることを知り、手すきはがきづくりを体験した子どもたちの表情からは、環境・リサイクルへの関心の高さが感じられ、現地に出向いて活動することの大切さを確認できた1日となりました。



オリジナル手すきはがきとともに記念撮影

リサイクルの大切さを啓発。
紙パックの手開きや紙すきを
体験しました。

【エコライフ・フェア2018】6月2日、3日

毎年6月の環境月間に実施されている環境省主催のイベント「エコライフ・フェア」。容環協は2007年からの参加です。さわやかな晴天に恵まれ、会場の代々木公園イベント広場を訪れた来場者は4万3,000人強と、昨年より約3,000人増。環境について楽しく学習・体験する場となりました。

容環協ブースでは、紙パックリサイクルのパネル説明、クイズ、手すきはがきづくりなどを実施。開始10分後には満員状態となり大盛況でした。また、NHKの取材も舞い込み、ホームページで情報が拡散されました。テントブースへの来場者数は2日間で805名と、3年連続で記録を更新しています。手すきはがきづくりやパネル説明に熱心な外国の方や環境について学ぶ大学生などの参加もあり、今後の紙パックリサイクルの発展に希望を感じました。



大にぎわいの容環協ブース



NHKが取材に訪れました

連日盛況の容環協ブース。
国内最大級の環境展に
出展しました。

【エコプロ2018】12月6日～8日

「エコプロ」は、1999年から開催されている日本最大級の環境展示会です。2018年で20回目の開催となり、容環協は今回も牛乳パック再利用マーク普及促進協議会と共同で出展しました。

展示会全体の来場者数は162,217名、そのうち延べ1,794名が容環協ブースに足を運んでいただきました。ブースでは紙パックの原料やリサイクルルールなどを、現物のサンプルや「もったいないものがたり」パンフレットを活用したスマホ対応アプリによるAR(拡張現実)体験などを通じて楽しく学んでいただきました。さらに、「牛乳パック手開き体験」のワークショップや全国パック連の協力による「手すきはがきづくり体験」を行い、様々な展示や活動を通じて、紙パックのリサイクルへの理解と協力を広く訴える機会となりました。



ワークショップ風景



卓上展示での説明

松澤 匡さんの作品
「牛乳パックバッグ」が
見事最優秀賞に。

18回目を迎えた「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2018」には全国の小学校より2,353作品の応募がありました。いずれも力作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞作品8点が選ばれました。おめでとうございます。

《受賞作品》

- ◆最優秀賞 『牛乳パックバッグ』
松澤 匡さん(川越市立霞ヶ関東小学校5年)
- ◆優秀賞 『牛乳パックのパンダ』
稲垣 優衣さん(さいたま市立浦和別所小学校4年)
- ◆優秀賞 『水車小屋』
山本 幸奈さん(桑名市立多度青葉小学校4年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞
『ぼくのエコ地球儀』
幸田 悠生さん(京都市立御所南小学校4年)
- ◆全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞
『お姉ちゃんのピアノ』
牛本 敦也さん(呉市立長迫小学校5年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞
『モザイクアートリサイクルポスター』
日野 琴美さん(高山市立江名子小学校3年)
- ◆日本乳業協会賞
『牛乳パック日本丸』
安藤 心音さん(岐阜市立長良東小学校6年)
- ◆審査委員会特別賞
『牛乳パックマグネット』
角田 彩音さん(横浜市立盲特別支援学校6年)
團原 昇汰さん(横浜市立盲特別支援学校6年)
高瀬 勇太郎さん(横浜市立盲特別支援学校4年)
武藤 香暖さん(横浜市立盲特別支援学校3年)
安東 奏音さん(横浜市立盲特別支援学校2年)

最優秀賞は埼玉県の小学校5年松澤 匡さんの作品「牛乳パックバッグ」でした。昨年の優秀賞「牛乳パックシェーズ」をさらにスケールアップし、大作に挑んでくれました。紙パックを細く切って編み上げるという、独自の技術も完成度を増し、さらに今回は丈夫な紙パックの特性を生かし、またパーツをうまく利用するなどすばらしい作品をつくってくれました。

受賞作の表彰式は「エコプロ2018」の容環協ブースにて12月8日に行われ、審査委員長の東京国立博物館・銭谷館長、実行委員会の容環協・城端会長をはじめ審査委員の方々から、受賞者にそれぞれ賞状・盾・副賞が贈られました。

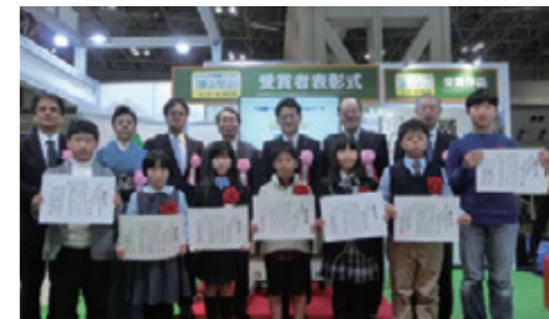
受賞作品は容環協の小学校向けホームページ「牛乳パック探検隊」で紹介されています。



最優秀作品
「牛乳パックバッグ」
松澤 匡さん



最優秀賞受賞の松澤 匡さん



容環協ブースで行われた表彰式

その他の活動



全国パック連との連携で
商業施設における啓発にも
取り組みました。

【商業施設「フードスクエアカスミ龍ヶ崎中里店」】2月3日

2017年12月に新しくオープンした店舗にて、「紙パックリサイクル促進キャンペーン」を開催しました。

カスミは、茨城県を中心に千葉県、埼玉県、栃木県、群馬県、東京都に合計184店舗を展開する地域密着型のスーパーマーケットでイオングループの一員です。

龍ヶ崎中里店は店頭で専用の回収ボックスを設置し、ペットボトル、食品トレイ、アルミ缶、スチール缶、牛乳パック、古紙などを回収しています。回収後は自社のリサイクルセンターに集めて選別・圧縮を行い、専門のリサイクル業者に引き渡して再生するという環境・社会貢献活動を行っている店舗です。

当日は寒波の到来のためか、初めのうちはお客様の入りかと思わしくありませんでしたが、お昼頃になると親子連れを中心にお客様が増加し、牛乳パックのパルプを使っての手すきはがきづくり体験(75名)や、牛乳を飲んで手開き体験(70名)、牛乳パックリサイクルに関するクイズ(73名)に積極的に参加していただきました。家庭および小学校での紙パックリサイクルについてや、店舗の専用回収ボックスに集められた紙パックがどのように再生されていくのかについて、お客様とじっくりお話することができました。

このイベントが今後も継続的に行われ、北関東地域に新しいリサイクルの環が広がるきっかけになることを期待しながら店を後にしました。



親子でクイズに挑戦です

リサイクルキャンペーンの内容

- ・視聴 DVD「牛乳パックン探検隊」
- ・体験 牛乳飲んで「牛乳パック簡単手開き」
「手すきはがきづくり(牛乳パックパルプ使用)」
- ・パネル 「森林管理～原料パルプのすばらしさ～紙パック回収とリサイクル」の流れ
- ・イベント 使用済み紙パック6枚とボックスティッシュ交換会

【商業施設「イオン相模原ショッピングセンター」】3月17日

相模原市協賛のもと、「紙パックリサイクル促進キャンペーン」を開催しました。

相模原市は「相模原ごみDE71大作戦」という、ごみの減量化・資源化を推進する活動を行っており、同市におけるイベントは2017年夏の「紙パックリサイクル講習会」に続いて、今回もイメージキャラクター「分別戦隊シゲンジャー銀河」の中からペーパーピンクが応援に駆けつけてくれました。

会場となった1階パブリックスペースは十分なスペースが確保され、来場されたお客様にはゆったりと各コーナーを体験していただきました。会場は、ボックスティッシュ交換コーナーを入口に、手すきはがきコーナー(180名参加)、クイズコーナー(97組参加)、牛乳を飲んで手開き体験コーナー(140名参加)と時計回りに配置し、すべてを体験されるお客様も数多くいらっしゃいました。相模原市の学校では給食牛乳パックの手開き、リサイクルが行われているため、子どもたちは手慣れた様子で手開きを進め、日頃の啓発の大切さを実感いたしました。

相模原市のホームページでは、紙パック6枚でボックスティッシュ1個に交換する旨を1か月前から告知しており、交換コーナーでは29組の来場者から合計365枚の使用済み紙パックを受け取りました。今後も各自治体と歩調をあわせた活動をしていく重要性を認識する一日となりました。



手すきはがきづくり体験

スマートフォンによる
新しい啓発コンテンツを
制作しました。

【AR(拡張現実)の応用】

「プラン2020」の普及啓発事業の一環として、紙パック回収率向上に向けて効果的な新しい取組であるスマートフォンによる啓発コンテンツを制作しました。

若者からお年寄まで幅広く普及しているスマートフォンにおいてAR(拡張現実)技術を応用し、冊子「「もったいないものがたり」の表紙にかざすと牛乳パックンが起き上がり、画面をタッチするとランダムに3つのパターンで動き出します。牛乳パックンと一緒に記念撮影することもできます。

画面のボタンを押すと「牛乳パックン探検隊動画」や「容環協ホームページ」に移り、さらに詳しい情報を得ることができます。

容環協ホームページには専用アプリのダウンロード方法など告知説明を掲載しています。

エコプロ2018の会場においても告知し、試していただきました。今後、商業施設などでのリサイクル講習会に展開し、紙パックリサイクルの啓発を推進します。



AR(拡張現実)の楽しみ方と画面イメージ

ごみ袋を用いた
啓発活動に取り組みました。

【町田市のごみ袋へ広告掲載】

普及啓発活動の一環として2017年は都バスでのラッピング広告を試みましたが、2018年はごみ袋を媒体として選択しました。ごみ袋への広告を募集している自治体は全国にいくつか存在します。その中で、首都圏であるために効果を確認しやすい、市内19万世帯が対象となり効果が期待できる、1か月単位での契約である、などの理由から町田市を選択しました。

町田市のごみ袋は数種類あり、最も使用されている20ℓサイズが10枚入った外袋は縦25cm×横20cmの大きさです。その下部に縦3.5cm×横13cmの広告スペースが設けられており、そこに「紙パックは大切な資源です。回収ボックスまたは古紙回収の紙パック区分へ」というメッセージを印刷しました。ごみ袋は市内外約500か所の店舗で11月中旬から販売され、1か月分に相当する10枚入り63,000パックが町田市民の皆様へ届けられました。

住民の皆様へのアピール手法の一つとして、今後とも検討していきます。



町田市のごみ袋へ広告掲載

2017年度 紙パック回収率



2017年度の紙パック回収率は
43.4%でした。

紙パックリサイクルに関する情報を関係者や社会に提供するため、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2018年も6月～10月に実施され、2017年度のリサイクル状況が明らかになりました。

2017年度の紙パック全体の回収率は43.4%（前年度比で0.9ポイント減）、使用済み紙パック回収率は34.9%（0.7ポイント減）となりました。

※2017年度実態調査では、紙パックメーカー9社・飲料メーカー295社・市区町村1,736・小学校1,988・スーパーマーケット等1,061・市民団体および福祉施設22等をアンケート調査対象にし、あわせてヒアリング調査を実施しました。なお、福島原発事故の影響により、一部地域について実施を控えています。
※「産業損紙・古紙」とは、紙パック製造工場や飲料工場で発生した損紙や古紙をいいます。
※「損紙」とは紙パック製造工場や飲料工場で飲料充填前に発生した端材などを、「古紙」とは飲料充填後に発生した紙パックをいいます。また、「使用済み紙パック」とは、家庭、学校、店舗、事業所などで飲み終わった紙パックを指します。

2017年度の紙パック回収率

紙パック回収率
(産業損紙・古紙を含む)

43.4%
(2016年度 44.3%)

=国内紙パック回収量÷紙パック原紙使用量
=96.6千トン / 222.5千トン

使用済み紙パック回収率
(使用された紙パック)

34.9%
(2016年度 35.6%)

=使用済み紙パック回収量÷飲料メーカー紙パック出荷量
=66.6千トン / 191.0千トン

参考 再活用や他の古紙への排出を反映した回収率

使用済み紙パックの中には、廃棄する前にまな板代わりに再活用されるものや、他の古紙として回収され紙パックとして分別されながらも回収量に計上されないものがあります。前者を分母から控除し、後者を分子に加えたときの各回収率は次のようになります。紙パック回収率=45.8%、使用済み紙パック回収率=37.3%

市町村回収や集団回収の
紙パック取引価格が
上昇しています

紙パック古紙は、紙の繊維が長く強いことなどから、良質の再生紙原料であり、高値で取引されています。

紙パックの取引価格は、自治体ごとに決め方がさまざまなので、標準的な価格を出すのは困難です。ここでは紙パック単独の価格で、資源価格以外の条件がついていない取引を対象に、相手先別に、相手先に来てもらう引渡価格と、相手先へ持ち込んだときの持込価格に分けて、市町村回収(東京特別区の回収を含む)と集団回収の価格を集計しました。

これらの回収の主な取引先は古紙回収業者と古紙原料問屋です。市町村回収では、概ね横ばいもしくは高値になりました。集団回収では、引渡価格がやや低下し、持込価格が上昇しました。平均価格は、市町村回収、集団回収とも前年度より高値となっています。

紙パック古紙の平均取引価格

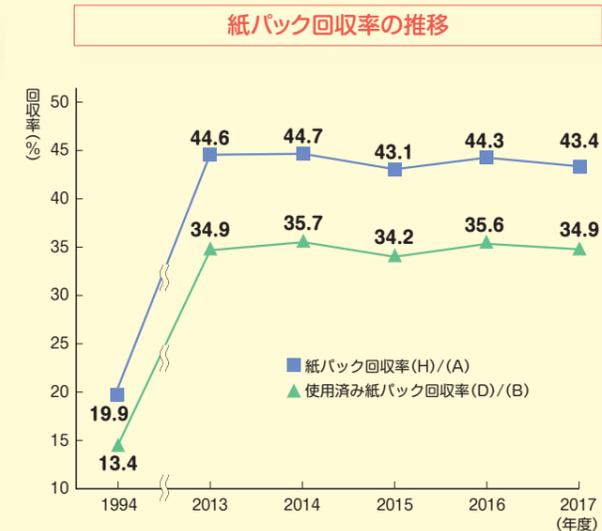
年度		2014	2015	2016	2017	
市町村回収	古紙回収業者	引渡価格	6.9	8.0	7.8	7.8
		持込価格	7.0	7.7	8.1	8.5
	古紙原料問屋	引渡価格	9.0	8.4	10.3	10.6
		持込価格	9.3	9.4	9.4	9.8
	製紙メーカー	引渡価格	8.6	6.8	7.6	6.5
		持込価格	12.0	7.8	9.4	10.3
平均価格		7.9	8.3	8.6	8.9	
集団回収	取引先不問	引渡価格	5.2	5.5	5.7	5.5
		持込価格	6.0	5.7	6.7	8.9
	平均価格	5.4	5.6	6.0	6.4	

(円/kg)

2017年度の紙パック回収量は
96.6千トンでした。

国内紙パックの回収率は、右の図のように推移しています。回収量と回収率の詳細は下の表のとおりです。

2017年度の国内紙パック回収量は、前年度より3.3千トン(3.3%)減少した96.6千トンでした。紙パックメーカーの損紙発生率が減少傾向にあり、産業損紙・古紙は前年度から1.4千トン減少しました。使用済み紙パックは、市町村の回収量は前年度並みでしたが、店頭回収と集団回収等が減少し、使用済み全体では前年度から1.9千トン減少しました。



主要データの推移 (単位:千トン)

区分	1994	2013	2014	2015	2016	2017	対前年度	
飲料用紙パック原紙使用量(A)	216.0	238.2	233.7	228.3	225.4	222.5	-1.3%	
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	33.5	31.4	29.7	29.8	28.2	-5.3%	
飲料メーカー産業損紙等発生量	-	2.4	2.2	1.9	1.9	2.1	+9.2%	
飲料メーカー飲料用紙パック出荷量(B)	197.9	202.1	199.3	196.0	192.6	191.0	-0.8%	
家庭系(C)	168.7	178.5	176.2	176.2	169.8	170.7	+0.6%	
事業系出荷量	29.2	23.6	23.1	19.8	22.8	20.3	-10.9%	
学校給食	10.7	11.8	11.7	11.6	11.6	11.8	+1.6%	
飲食店等	18.5	11.7	11.3	8.3	11.2	8.6	-23.8%	
使用済み紙パック回収量(D)=(E)+(F)	26.5	70.6	71.1	67.0	68.5	66.6	-2.7%	
家庭系(E)	25.9	59.4	60.4	56.3	57.8	56.1	-3.0%	
店頭回収	13.8	32.3	31.9	30.4	29.3	28.4	-3.2%	
市町村回収	4.3	13.6	12.8	12.2	11.6	11.6	+0.0%	
集団回収等	7.8	13.5	15.7	13.7	16.9	16.1	-4.7%	
市町村把握	7.8	9.1	8.4	8.8	8.6	8.0	-7.1%	
古紙原料問屋による独自回収等	-	4.4	7.3	4.9	8.3	8.1	-2.2%	
事業系(F)	0.6	11.2	10.7	10.7	10.6	10.5	-1.0%	
学校給食	0.6	9.3	8.8	8.8	8.7	8.7	-0.3%	
飲食店等	-	1.9	1.9	2.0	1.9	1.8	-4.4%	
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)	16.5	35.7	33.3	31.3	31.4	30.0	-4.4%	
紙パックメーカー	16.5	33.5	31.4	29.7	29.8	28.2	-5.3%	
飲料メーカー	-	2.2	1.9	1.7	1.6	1.8	+10.7%	
国内紙パック回収量(H)=(D)+(G)	43.0	106.3	104.4	98.3	99.9	96.6	-3.3%	
紙パック古紙輸入量	-	12.8	18.6	19.8	19.8	19.8	±0.0%	
紙パック総受入量	43.0	119.1	123.0	118.1	119.6	116.4	-2.7%	
紙パック再資源化量	30.1	93.7	95.4	95.1	96.4	93.8	-2.7%	
回収率	紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	44.6%	44.7%	43.1%	44.3%	43.4%	-0.9ポイント
	使用済み紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	34.9%	35.7%	34.2%	35.6%	34.9%	-0.7ポイント
	家庭系使用済み紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	33.3%	34.3%	31.9%	34.1%	32.9%	-1.2ポイント

※紙パック再資源化量=紙パック総受入量×歩留率。歩留率は、2001年度以降についてはアンケートにより求めています。

※1994年度の産業損紙発生量にはアルミつき紙パックを含みます。

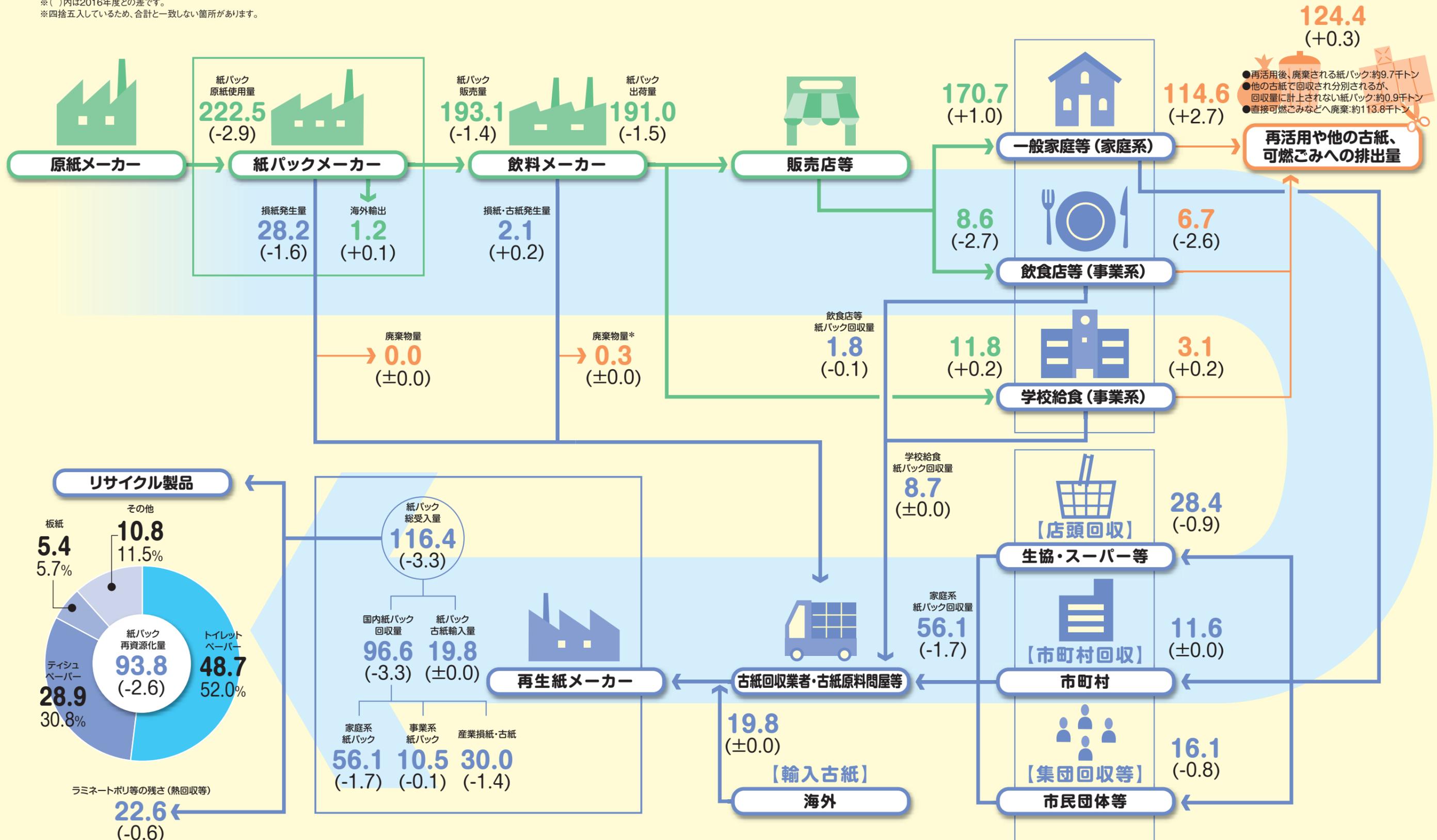
※100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。

2017年度 紙パックマテリアルフロー



2017年度の紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン
 ※()内は2016年度との差です。
 ※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。



* 廃棄物量には熱回収されるものも含む。

小売事業者のリサイクル状況

福祉施設のリサイクル状況



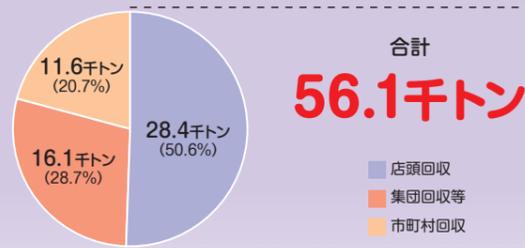
スーパーマーケットなどの店頭回収ボックスで多くの紙パックが回収されています。

家庭からの紙パック回収の約半分を占めているのがスーパーマーケットなどの店頭回収ボックスからの回収です。

店頭回収の調査は、日本チェーンストア協会会員各社の公表データ、日本生活協同組合連合会からの情報提供のほか、独自調査により行っています。2017年度の店頭回収量は28.4千トンで前年度より0.9千トン減少しました。

なお、小売形態の変化に合わせて、一部のドラッグストアやコンビニエンスストアについても調査を行っています。

家庭系紙パックの回収拠点別回収量(推計値)



取り組んでいます! リサイクル

株式会社ライフコーポレーション

(東京本社: 東京都台東区)

取組事例

ライフコーポレーションは、従業員数25,882人(2018年2月期)のスーパーマーケットチェーンで近畿圏、首都圏に合計266店舗(2018年2月期)があります。

同社は環境憲章を制定(2009年7月改定)し、レジ袋削減(マイバッグ持参運動)、省エネ(CO2削減)、食品リサイクル、容器包装リサイクルなどに取り組んでいます。店頭には主に食品トレー、紙パック、ペットボトル、ペットキャップのリサイクルボックスを設置しています。

紙パックの回収量は2017年度410トンで、毎年概ね400トン前後と安定しています。回収した紙パックはリサイクルトイレットペーパーのプライベートブランド商品の原料として使用されています。また、店舗で使用しているトイレットペーパーにも利用されています。

また、マイバッグ持参運動については、レジ袋を辞退いただいたお客様への値引きや京都市内の店舗でのレジ袋有料化を実施しており、マイバッグ持参率は過去5年連続増加し、2017年度は全店平均で37.8%となりました。

今後も地域社会の一員として、お客様にご協力をいただき、紙パックなど限りある地球の資源を最大限有効に活用する取り組みを行っていきます。



リサイクルボックス

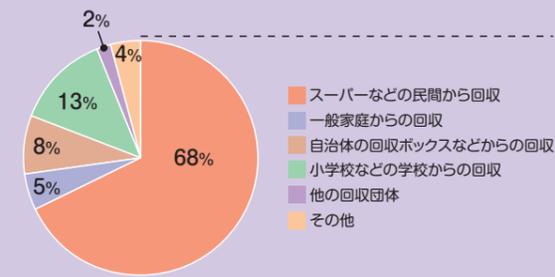


店頭回収した紙パックを使用したリサイクルトイレットペーパーのプライベートブランド商品

福祉施設の回収先は多岐にわたっています。

福祉施設の回収先は、スーパーマーケットなどの店頭回収ボックスが多いほか、小学校などの学校、自治体の回収ボックス等、一般家庭などと多岐にわたっています。また、多くの施設では、回収・受け入れた紙パックを主に回収業者に引き渡しています。

福祉施設の紙パック回収量に占める回収先割合



取り組んでいます! リサイクル

就労継続支援B型事業所 紙再生工房

(大阪府大阪市)

取組事例

平成10年4月に開所した紙再生工房は、特定非営利活動法人もなか会を運営母体とし、地域と連携しながら障がいを持つ方々に就労と社会生活に参加する機会を提供しています。現在は十数名の利用者が活動しています。

今年で20周年を迎える紙再生工房は、市内の小・中学校の児童・生徒が集めた紙パックや、容器メーカーの工場損紙を利用し、多彩な紙製品を作っています。

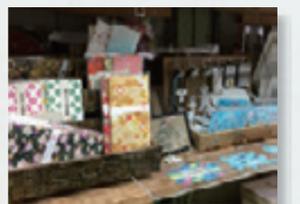
大阪府堺市の自転車部品メーカーと協働して、地元の大和川で水質浄化に役立つ葦(ヨシ)の繊維と紙パックから作る再生パルプを合わせた「ヨシ入り手すき紙」も製作しています。こちらは企業や個人の名刺に広く使われており、この紙を使用した府立高校の卒業証書を作る事業は10年続いています。

神戸に本社を置く株式会社川重ハートフルサービス(特例子会社)が新たに紙すき部門を立ち上げた際には、再生紙づくりの機器や資材の紹介から、紙づくりの技術教授、継続的な訓練支援など、再生紙づくりをトータルでコンサルティングするなど、幅広い活動も行っています。

はがきなど平面的な紙製品にとどまらず、型抜きをほどこして作ったポチ袋、色紙のパルプを何色も重ねてアクリル板にのせたスタンドグラスのようなアート作品、さらにはその制作過程の時間を参加者と共有するワークショップの開催など、再生したパルプを様々な生かし、紙再生工房の利用者がより広く、深く社会とつながる活動を進めています。



葦と再生パルプを合わせてすく作業



紙再生工房で作られた様々な紙製品



市町村回収・集団回収の状況

約9割の自治体が紙パック回収に取り組んでいます。

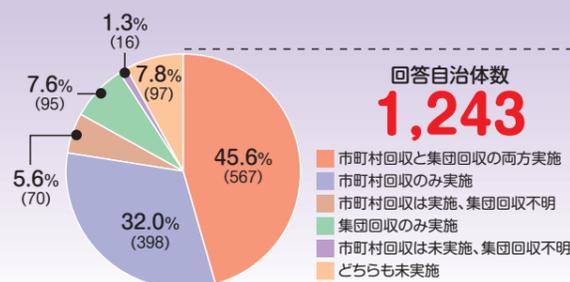
2017年度調査は全国1,741市区町村のうち、福島原発事故の影響が残る5町村を除いた1,736の自治体を対象に実施し、1,243市区町村から回答を得ました。回答人口比率は日本全体の88.3%になります。

調査では、市区町村や一部事務組合などが行う収集を「市町村回収」、市区町村に登録された住民団体による回収を「集団回収」としています。

市区町村数で見るときの市町村回収と集団回収の実施率は前年度とほぼ同じで、市町村回収が83%、集団回収が不明を除いて57%*でした。市町村回収と集団回収のいずれかを実施しているのは91%で、全国の約9割の自治体で紙パックの回収に取り組んでいることになります。

*集団回収実施率=(市町村回収と集団回収を両方実施+集団回収のみ実施) / {回答自治体数-(市町村回収実施・集団回収不明の自治体数+市町村回収未実施・集団回収不明の自治体数)}=(567+95) / (1243-(70+16))=57%

市町村回収と集団回収の実施率



自治体の取組みや集団回収によって19.6千トンの紙パックが回収されました。

市町村回収量と集団回収量は、都市類型別に「一般市」「政令指定都市」「東京特別区」「町村」の4つに分けて推計しています。2017年度は市町村回収量が11.6千トン、集団回収量が8.0千トンで、合計では19.6千トンでした。

1人あたりの回収量(原単位)をみると、市町村回収は、町村や一般市が大きく、政令指定都市や東京特別区では小さくなっています。また、集団回収は、一般市や政令指定都市が大きく、政令指定都市や東京特別区などの大都市で小さくなっています。

ただし、政令指定都市や東京特別区は、都市や区によって原単位が様々です。

都市規模や地域によって異なる紙パック回収の実情を踏まえ、紙パック回収量を増やすための検討を進めることが課題といえるでしょう。

都市類型別の市町村回収・集団回収推計回収量

	全体	一般市	政令指定都市	東京特別区	町村
市町村回収	推計量(千トン)	11.6	8.4	1.1	0.6
	都市類型別回収推計量比率	100%	72%	10%	5%
	一人あたりの回収量(g)	91	105	42	68
集団回収	推計量(千トン)	8.0	5.6	1.7	0.2
	都市類型別回収推計量比率	100%	70%	21%	2%
	一人あたりの回収量(g)	63	70	62	19
合計	推計量(千トン)	19.6	14.0	2.8	0.8
	都市類型別回収推計量比率	100%	71%	15%	4%
	一人あたりの回収量(g)	153	175	104	88
都市類型別人口(百万人)	128	80	27	9	

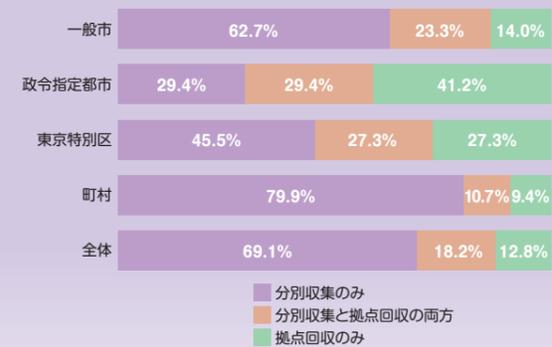
*四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

紙パックの市町村回収は分別収集方式や拠点回収方式で実施されています。

市町村回収の紙パック回収方式には、分別収集方式と拠点回収方式があります。分別収集とは各戸やステーションからの回収で、拠点回収は公民館の回収ボックスなどからの回収です。

紙パックを回収している市区町村を都市類型別にみると、一般市と町村では分別収集が多く、一般市の約63%、町村の約80%は「分別収集のみ」となっています。政令指定都市と東京特別区は拠点回収が多く、特に政令指定都市では「拠点回収のみ」が約41%となっています。

都市類型別・回収方式の比率



取り組んでいます! リサイクル

京都府宇治市

取組事例

「みどりゆたかな住みたい、住んでよかった都市」「お茶と歴史・文化の香るふるさと宇治」を目指す宇治市は、京都府内第2位の人口約18万7千人が暮らす京都府南東部に位置する都市で、宇治茶や平等院鳳凰堂が有名です。

宇治市では、紙パックは、市施設、集会所など市内63か所の拠点に回収箱を設置して週1回の頻度で回収しています。一方、集団回収で古紙は回収していますが、紙パックは対象外です。紙パック回収量は、平成27年度より年間20トン前後で推移しており、回収した紙パックは全量を市内の社会福祉法人に寄付しています。

市民へのリサイクルの啓発については、紙パックから生まれた宇治市リサイクル推進キャラクター「パッケン」が大活躍しています。市内の保育所、幼稚園を対象とした環境教育や市内で行われる環境イベントなどに登場し、紙パックを使った工作、クイズ、分別ゲーム、紙芝居などで、ごみの減量やリサイクルの大切さを伝えています。手づくりの着ぐるみ「パッケン」は子どもたちにも大人気です。

回収箱を利用した拠点回収は京都府下でいち早く導入されたので、缶、びん、ペットボトル、紙パックの分別回収は市民に浸透していますが、紙パックの更なる分別回収に向けて、今後も継続して取り組んでいきます。



環境教育でのパッケンとのふれあい



宇治市役所に設置された回収ボックス

学校のリサイクル状況

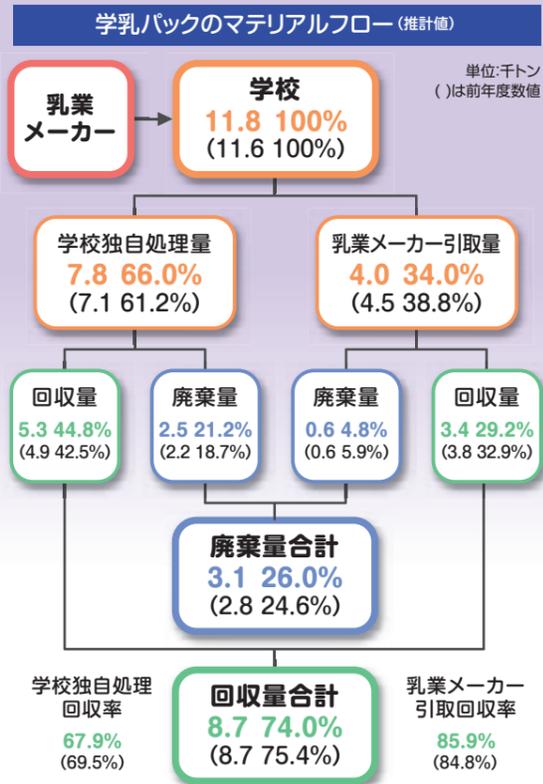
製紙メーカーのリサイクル状況



学校給食用牛乳の紙パックの
リサイクルも引き続き高い比率で
推移しています。

2017年度に学校給食用牛乳として供給された紙パックの総量は前年度より0.2千トン多い11.8千トンでした。そのうちリサイクルのために回収された紙パックは8.7千トンで引き続き高い比率で推移しています。乳業メーカー引取から学校独自処理への移行が進んでおり、各校から回収する方法が重要になっています。

小学校では学乳パックのリサイクル以外にも、理科や図工などの授業での再利用や、家庭からの紙パック回収活動などが行われています。



※学校独自処理とは、学校が自治体や古紙回収業者などに直接引き渡すことを指します。
※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

取り組んでいます! リサイクル

尾張旭市立本地原小学校

(愛知県尾張旭市)

取組事例

愛知県北西部の尾張旭市に位置する本地原小学校は、昭和26年4月に「組合立旭小学校本地原分校」として児童数92名、複式学級3クラスの小規模な学校としてスタートしました。児童たちは「本地っ子」と称され、その後は児童数が1,000人を越える時期を経て、今までに5,800名余の卒業生を送り出しています。

リサイクル・エコ活動は非常に盛んで、全児童(本地っ子)で取り組んでいます。4年生は、社会・総合学習で「ごみの処理と利用」について勉強し、資源として再利用できることを学んでいます。また、5、6年生の委員会活動で使用済み牛乳パック回収時は「洗って、開いて、乾かして」、ペットボトル回収時は「ラベルを剥がしてキャップは別に」と呼びかけ、児童全員がきちんと資源回収ができるようにしています。

職員室の廊下に設置された牛乳パック、ペットボトル、古紙、使用済みインクカートリッジ回収ボックスを見ると、児童たちが持込んだ大切な資源がきちんと分別されて積まれていて、児童一人ひとりのリサイクル活動の意識の高さに驚かされました。また、PTA活動も盛んで、尾張旭市、自治会、老人会など地域と協力し、リサイクル資源を活用した活動に取り組んでいます。「家庭教育学級」では、牛乳パックで小物入れを作成したり、敬愛ふれあい行事では、高齢者の皆様に児童クラブが牛乳パックで小物入れをつくりプレゼントするなどの活動をしています。今後も、「本地っ子」としてリサイクル活動を引き継いでいくことでしょう。



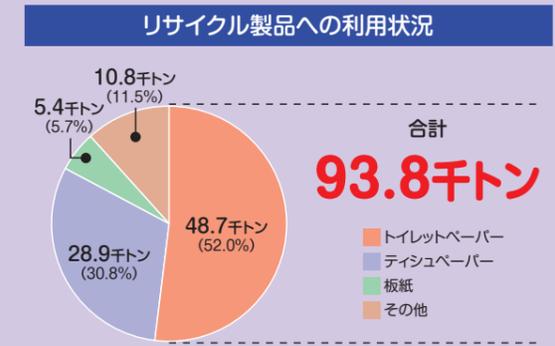
廊下に設置の各種回収箱



牛乳パック回収箱

回収された紙パックは
良質なパルプ繊維として
再生されています。

2017年度の国内紙パック回収量96.6千トンと紙パック古紙輸入量をあわせた総受入量は116.4千トンになり、このうち約81%の93.8千トンがトイレットペーパーやティッシュペーパーなどのリサイクル製品として生まれ変わりました。紙パックは良質なパルプ繊維として、これら製品の貴重な原料になっています。



※トイレットペーパーやティッシュペーパー等の製品別利用状況は、2015年度の構成比をもとに算出しました。

取り組んでいます! リサイクル

日本製紙クレシア株式会社

(東京都千代田区)

取組事例

日本製紙クレシアはクリネックスやスコッティでお馴染みの家庭紙メーカーであり、日本製紙グループの一員です。当社は40年以上に亘り紙パックを貴重なリサイクル資源として利用促進に取り組んできました。最近では新たに設備投資を行い、今まで処理できなかった種類の紙パックの利用もできるようになり、更なるリサイクル貢献に努めております。そんな当社のリサイクルの取組事例を2つご紹介いたします。

1つ目は、地域貢献活動として当社の東京工場にて工場見学を実施しております。一般消費者や地域住民、近隣の小学生やPTA等、年に4~5回程度開催しております。紙パックを主としたリサイクル原料がティッシュやトイレットロールになるまでを見学いただき、紙パックがとても大事な資源であることを伝えリサイクル意識向上に努めております。

また、本社ビルや全工場で紙パック回収ボックスを設置して従業員の家庭から排出される紙パックを回収し自社工場でリサイクルしており、従業員のリサイクル意識啓発へと結びつけております。

2つ目は、リサイクルの過程で発生する廃棄物の有効活用についてです。紙パックはポリエチレンラミネートされているため、必然的に廃ポリが発生します。産業廃棄物になる廃ポリを当社ではRPF設備を導入して固形燃料化を図っています。更に付加価値を高めるためにペレット化設備も導入し、燃料用途ではなくリサイクル原料化を図り環境負荷を少しでも減らせるよう企業努力を続けています。

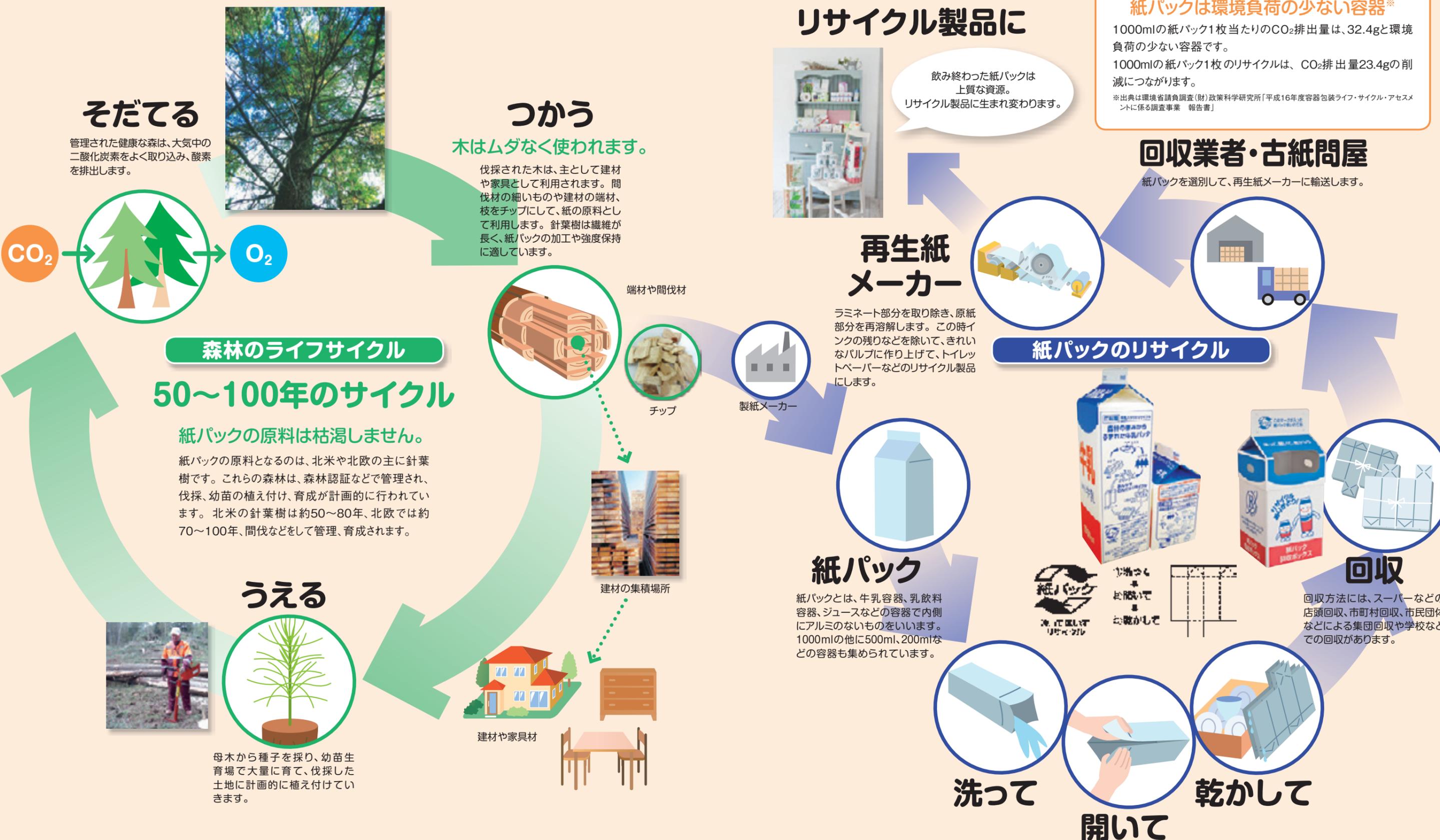


東京工場 工場見学の様子



従業員の家庭から回収された紙パック

紙パックを取り巻くダブル循環



そだてる

管理された健康な森は、大気中の二酸化炭素をよく取り込み、酸素を排出します。



つかう

木はムダなく使われます。

伐採された木は、主として建材や家具として利用されます。間伐材の細いものや建材の端材、枝をチップにして、紙の原料として利用します。針葉樹は繊維が長く、紙パックの加工や強度保持に適しています。



リサイクル製品に

飲み終わった紙パックは上質な資源。リサイクル製品に生まれ変わります。



紙パックは環境負荷の少ない容器*

1000mlの紙パック1枚当たりのCO₂排出量は、32.4gと環境負荷の少ない容器です。

1000mlの紙パック1枚のリサイクルは、CO₂排出量23.4gの削減につながります。

*出典は環境省請負調査(財)政策科学研究所「平成16年度容器包装ライフ・サイクル・アセスメントに係る調査事業 報告書」

回収業者・古紙問屋

紙パックを選別して、再生紙メーカーに輸送します。

再生紙メーカー

ラミネート部分を取り除き、原紙部分を再溶解します。この時インクの残りなどを除いて、きれいなパルプに作り上げて、トイレトペーパーなどのリサイクル製品にします。



紙パックのリサイクル

紙パック

紙パックとは、牛乳容器、乳飲料容器、ジュースなどの容器で内側にアルミのないものをいいます。1000mlの他に500ml、200mlなどの容器も集められています。

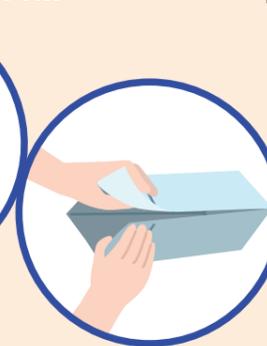


回収

回収方法には、スーパーなどの店頭回収、市町村回収、市民団体などによる集団回収や学校などでの回収があります。



洗って



開いて



乾かして

森林のライフサイクル

50~100年のサイクル

紙パックの原料は枯渇しません。

紙パックの原料となるのは、北米や北欧の主に針葉樹です。これらの森林は、森林認証などで管理され、伐採、幼苗の植え付け、育成が計画的に行われています。北米の針葉樹は約50~80年、北欧では約70~100年、間伐などをして管理、育成されます。

うえる



母木から種子を採り、幼苗生育場で大量に育て、伐採した土地に計画的に植え付けていきます。



建材や家具材



建材の集積場所

あゆみ



●全国牛乳容器環境協議会のあゆみ ■全国牛乳パックの再利用を考える連絡会のあゆみ ★連携強化活動

年度	あゆみ	関連法規の動き
1984年	■ものたのせつさを子どもたちに伝えたいと山梨県の主婦グループが牛乳パックの再利用運動を開始	
1985年	■「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」発足(1985年) ●「全国牛乳容器環境協議会」設立(1992年) ■「牛乳パック再利用マーク」決定(1992年)	●環境基本法制定(1993年)
1993年	●林野庁主催「森林の市」に出展(1993年より2008年まで毎年出展)	
1995年	●「飲料用紙容器(紙パック)リサイクルの現状と動向に関する基本調査」開始	●容器包装リサイクル法制定
1996年	●「飲料用紙容器リサイクル協議会」発足	
1997年	■牛乳パック回収システム全国事例調査の実施	●容器包装リサイクル法施行
1998年	●学校給食用牛乳パックのリサイクル推進モデル事業を開始(北海道) ■学校給食用牛乳パック等の回収・再商品化システム構築のための実験プロジェクトの実施(福岡、兵庫) ■飲料用紙容器の回収促進のための懇親会の開催(開催場所*1)	
1999年	★牛乳パックリサイクル促進地域会議の開催(継続開催*1)	
2000年	●紙パック識別マーク自主制定 ●飲料用紙パックのリサイクル促進意見交換会開始(継続開始)	●容器包装リサイクル法完全施行 ●循環型社会形成推進基本法制定 ●資源有効利用促進法制定
2001年	★牛乳パック回収拠点拡大運動の展開(回収ボックスを各地域へ提供)	●グリーン購入法等制定
2002年	●全国牛乳容器環境協議会10周年記念シンポジウム開催 ★牛乳パック回収拠点10,000か所拡大活動開始 ●紙パックのライフサイクルアセスメント(LCA)調査開始(継続実施)	
2003年	★北米における紙パックLCA調査実施	
2004年	●環境キャンペーン開始(毎年の環境月間、3R月間に実施) ★牛乳パックリサイクル講習会の開催(継続実施*2) ●国内最大級の環境関連展示会「エコプロダクツ2004」出展(毎年継続出展)	●容器包装リサイクル法見直し審議開始
2005年	●紙パックの回収率目標2010年度50%以上を設定 ●容器包装の3R推進のための自主行動計画を公表(飲料用紙容器リサイクル協議会) ★子ども向け環境教育用ホームページ「牛乳パックン探検隊」開設 ★北米における紙パックLCA調査実施	
2006年	■全国パック連20周年記念集会	●容器包装リサイクル法改正・立法化
2007年	●「プラン2010飲料用紙パックリサイクル行動計画-回収率50%に向けて-」策定・発刊 ●環境月間の主要行事「エコライフ・フェア2007」に出展(毎年継続出展) ■「環の縁結びフォーラム-全国パック連情報交流会-」協賛(毎年継続開催) ★北米における紙パックLCA調査 ★牛乳パックリサイクル出前授業開始(継続実施*3) ★牛乳パック回収拠点拡大運動のさらなる展開(20,000か所目標)	
2008年	●洞爺湖サミット記念環境総合展2008出展 ★飲料用紙容器へのCTMP採用問題対応会議	●改正容器包装リサイクル法完全施行
2009年	★書籍「紙パック宣言」出版	
2010年	★DVD「牛乳パックン探検隊」制作 ★第1回「日韓乳加工産業環境経営フォーラム」(韓国ソウル開催)	

年度	あゆみ	関連法規の動き
2011年	★冊子「紙パックリサイクルほんとはなし」発行 ★紙パックリサイクル韓国出前授業指導者講習会開催(韓国) ★回収ボックス配布20,000か所達成 ●「プラン2015飲料用紙パックリサイクル行動計画」策定・発刊 ●容器包装の3R推進のための第二次自主行動計画を公表(飲料用紙容器リサイクル協議会) ★第2回「日韓乳加工産業環境経営フォーラム」(大阪開催) ■「牛乳パック再利用マーク普及促進協議会」設立	
2012年	●容環協運営新組織発足(総務・支部組織・広報・イベント委員会) ★第3回「日韓乳加工産業環境経営フォーラム」(韓国慶州開催) ★北米における紙パックLCA調査実施 ★商業施設でワークショップ開催「三越銀座(東京)」	
2013年	●容環協創立20周年記念シンポジウム開催 ★冊子「「もったいない」ものがたり」発行 ★商業施設でワークショップ開催「アリオ橋本(相模原市)」「ララガーデン長町(仙台市)」	●改正容器包装リサイクル法見直し審議開始
2014年	●紙パック組成分析調査(松戸市) ★商業施設でワークショップ開催「伊勢丹松戸店(松戸市)」「ララガーデン長町(仙台市)」	
2015年	●紙パック組成分析調査(町田市) ★冊子「紙パックリサイクル全国20事例集第4集」発行 ★「紙パックリサイクルに関わる製紙メーカー意見交換会」開催(毎年継続開催) ■「環の縁結びフォーラム-全国パック連30周年記念集会-」	
2016年	●「プラン2020飲料用紙パックリサイクル行動計画」策定・発刊 ●容器包装3Rのための第3次自主行動計画を公表(飲料用紙容器リサイクル協議会) ★北米における紙パックLCA調査・紙パックリサイクル実態視察 ★リーフレット「ひと目でわかる 紙パックリサイクルほんとはなし」発行 ■「環の縁結びフォーラム-求められる飲料用紙パックのあり方とそのリサイクル適性について-」	●改正容器包装リサイクル法見直し審議終了
2017年	●都営バス広告を実施(「牛乳パックン」バス) ★冊子「大人も子どもも 牛乳パックで作る小物リサイクル工作室」発行 ■「環の縁結びフォーラム-海外のリサイクル政策と日本の資源循環法体系を通し 紙パックリサイクルのあり方を考える-」	
2018年	●燃やせるごみ専用袋に広告掲載(町田市) ●AR(拡張現実)を利用した啓発実施 ■「環の縁結びフォーラム-古紙市場における雑がみ及び紙パックの現状と今後-」	

*1 紙パックリサイクル促進地域会議の開催地(1998年~2018年)

北海道、函館、青森、岩手、宮城、福島、山形、新潟、長野、滋賀、群馬、茨城、さいたま、千葉、茨城、東京都(北部地区)(東部地区)(23区)、昭島、神奈川、横浜、桑名、春日、静岡、岐阜、石川、福井、三重、愛知、大阪(京阪神)、京都、兵庫(神戸・阪神)、明石、島根、岡山、広島、徳島、愛媛、高知、福岡、北九州、大分、佐賀、熊本、沖縄

*2 紙パックリサイクル講習会の開催地(2004年~2018年)

旭川市、札幌市、さいたま市、朝霞市、富士見市、中央区、渋谷区、品川区、江東区、中野区、北区、西東京市、横浜市、厚木市、相模原市、(千葉県)横芝光町、大月市、甲府市、(静岡県)清水町、筑西市、春日井市、日進市、大阪市、西宮市、松山市、(徳島県)板野町、高知市、別府市、那覇市

*3 牛乳パックリサイクル出前授業の実施校(2007年~2018年)

青森市立泉川小学校、仙台市立中山小学校、仙台市立松陵小学校、須賀川市立阿武隈小学校、水戸市立赤塚小学校、筑西市立上野小学校、筑西市立伊譚小学校、茂木町立茂木小学校、芳賀町立芳賀南小学校、野木町立友沼小学校、太田市立中央小学校、三郷市立丹後小学校、川口市立戸塚南小学校、越谷市立大袋東小学校、鴻巣市立赤見台第一小学校、市原市立ちはら台桜小学校、野田市立二川小学校、渋谷区立加計塚小学校、大田区立都南小学校、江戸川区立篠崎第二小学校、西東京市立向台小学校、町田市立小山小学校、青梅市立今井小学校、多摩市立諏訪小学校、横浜市立荏子田小学校、横浜市立綱島小学校、横浜市立日枝小学校、大和市学校教育研究会、平塚市立岡崎小学校、南アルプス市立白根百田小学校、北社市立武川小学校、駒ヶ根市立赤穂小学校、富山市立新庄小学校、金沢市立泉野小学校、垂井町立若手小学校、神戸市立神戸小学校、静岡市立東源台小学校、浜松市立浜名小学校、日進市立東小学校、日進市立西小学校、岡崎市立山中小学校、弥富市立白鳥小学校、尾張旭市立本地原小学校、南伊勢町立南島東小学校、名張市立美旗小学校、島本町立第二小学校、大阪市立弁天小学校、大阪市立鶴町小学校、岸和田市立東城小学校、貝塚市立中央小学校、尼崎市立若葉小学校、西宮市立高木小学校、王寺町立王寺北小学校、松江市立鹿島東小学校、広島市立井口台小学校、広島市立牛田新町小学校、広島市立仁保小学校、広島市立温品小学校、広島市立大町小学校、広島市立八幡東小学校、福山市立引野小学校、三豊市立松崎小学校、三豊市立大見小学校、高知市立鶴田小学校、吉野川市立上浦小学校、北九州市立天籟寺小学校、北九州市立星ヶ丘小学校、佐賀市立若楠小学校



容環協の発行物

会員一覧

紙パックの特性やリサイクルを
わかりやすく学べるDVDや
リーフレットを提供しています。

DVD「牛乳パックン探検隊」

容環協の小学生向けホームページ「牛乳パックン探検隊」の内容の詳細版として、子どもたちが環境を考え、自ら行動することの大切さを学ぶ教材となるDVD「牛乳パックン探検隊」を準備しています。お申し込みいただいた学校・団体には無料配布しています。



DVD「牛乳パックン探検隊」

「大人も子どもも 牛乳パックで作る小物リサイクル工作室」

NPO法人「ゆいまある」のご指導をいただき、美しい小物製作のパンフレットを作成しました。紙パックの端切れをリサイクルするポイントも書かれています。工作イベントなどでぜひご活用ください。



「大人も子どもも 牛乳パックで作る小物リサイクル工作室」

「紙パックリサイクルほんとはなし」

全国パック連と協力して新しい紙パックリサイクル活動事例紹介と端切れのリサイクル推進を盛り込み改訂しました。子ども向けに牛乳パックのイラストで親しみやすく編集した「「もったいない」ものがたり」もご活用ください。



「紙パックリサイクルほんとはなし」



「「もったいない」ものがたり」

「牛乳パックのおはなし」

小学校低学年向け冊子「牛乳パックのおはなし」はまんが形式で、牛乳パックの誕生からリサイクルされるまでをわかりやすく説明しています。講習会など、子ども連れの方が参加されるイベントの際にお使い下さい。



「牛乳パックのおはなし」

「牛乳パックでつくって遊ぶリサイクル工作室」

手すきはがきのすき方や牛乳パックを使った工作など、リサイクルのアイデアがいっぱいです。講習会やエコライフ・フェアなどのイベントで配布しています。



「牛乳パックでつくって遊ぶリサイクル工作室」

書籍「紙パック宣言」

紙パックの特性やリサイクル活動などを詳しく解説した書籍で、リサイクルの意識を深めながら地球の未来へ向けた提言となるような内容となっています。著者に(株)エコイプスの猪瀬代表、全国パック連の平井代表のほか、容環協からも7名参画しました。



書籍「紙パック宣言」
日本評論社

「紙パックリサイクル全国20事例集」第4集

紙パックの分別回収には地域の方々への理解や工夫が必要です。この事例集は全国の市民団体、自治体、事業者などの各分野での実践事例を紹介してリサイクルのさまざまなシーンでの課題解決のヒントとなることを目的として編集しています。



第4集となった
「紙パックリサイクル全国20事例集」

団体会員(3団体)

一般社団法人 日本乳業協会
一般社団法人 Jミルク
全国乳業協同組合連合会

飲料用紙容器メーカー(7社)

日本製紙(株)
日本テトラパック(株)
石塚硝子(株)
大日本印刷(株)
凸版印刷(株)
北越パッケージ(株)
東京製紙(株)

乳業メーカー(122社)

【北海道】

よつ葉乳業(株)
サツラク農業協同組合
北海道保証牛乳(株)
新札幌乳業(株)
くみあい乳業(株)
北海道乳業(株)
(株)函館酪農公社
(株)北海道酪農公社
(株)町村農場
倉島乳業(株)
(株)豊富牛乳公社

【青森県】

萩原乳業(株)

【岩手県】

不二家乳業(株)

【宮城県】

東北森永乳業(株)
古川乳業(株)
山田乳業(株)
みちのくミルク(株)
東北グリコ乳業(株)

【山形県】

富士森永乳業(株)
(有)後藤牧場
奥羽乳業協同組合

【福島県】

酪王乳業(株)
東北協同乳業(株)
会津中央乳業(株)
松永牛乳(株)
福島乳業(株)

【茨城県】

茨城乳業(株)
トモエ乳業(株)
いばらく乳業(株)
関東乳業(株)

【栃木県】

針谷乳業(株)
栃木明治牛乳(株)
栃木乳業(株)
ホウライ(株)千本松牧場本部

【群馬県】

榛名酪農協同組合連合会
東毛酪農協同組合
群馬牛乳協業組合

【埼玉県】

森乳業(株)
西武酪農乳業(株)
埼玉酪農協同組合
大沢牛乳(株)

【千葉県】

古谷乳業(株)
千葉北部酪農協同組合
千葉酪農協同組合

【東京都】

雪印メグミルク(株)
(株)明治
森永乳業(株)
協同乳業(株)
小岩井乳業(株)
コーシン乳業(株)

【神奈川県】

タカナン乳業(株)
横浜乳業(株)
近藤乳業(株)
足柄乳業(株)
(株)協同牛乳

【長野県】

八ヶ岳乳業(株)
(有)松田乳業

【新潟県】

新潟県酪農協業(株)
原田乳業(株)
(株)塚田牛乳
(株)佐渡乳業

【富山県】

とんみ乳業協業組合
黒東乳業

【石川県】

アイ・ミルク北陸(株)

【岐阜県】

飛騨酪農協同組合
(有)牧成舎
関牛乳(株)
美濃酪農協同組合連合会

【静岡県】

いなさ酪農協同組合
函南東部酪農協同組合
東海明治(株)
朝霧乳業(株)

【愛知県】

中央製乳(株)
(有)愛知兄弟社
常滑牛乳(資)

【三重県】

大内山酪農協同組合

【京都府】

平林乳業(株)
京都酪農協同酪農センター

【大阪府】

泉南乳業(株)
日本酪農協同(株)
ビタミン乳業(株)
(株)いかるが牛乳
江崎グリコ(株)

【兵庫県】

丹波乳業(株)
淡路島牛乳

【鳥取県】

大山乳業協同組合

【島根県】

木次乳業(有)
安来乳業(株)

【岡山県】

オハヨー乳業(株)
梶原乳業(株)
蒜山酪農協同組合
岡山西酪農協同組合

【広島県】

山陽乳業(株)
東洋乳業(株)
広島協同乳業(株)
チチヤス(株)

【山口県】

やまぐち酪農協業(株)
防府酪農協同組合
西本牧場

【香川県】

四国明治(株)

【愛媛県】

四国乳業(株)

【高知県】

ひまわり乳業(株)

【福岡県】

ニシラク乳業(株)
オーム乳業(株)
永利牛乳(株)

【長崎県】

島原地方酪農協同組合

【熊本県】

熊本県酪農協同組合連合会
熊本森永乳業(株)
球磨酪農協同組合
阿蘇酪農協同組合
(資)堀田功乳舎

【大分県】

九州乳業(株)
下郷酪農協同組合
(有)古山乳業

【宮崎県】

南日本酪農協同(株)

【鹿児島県】

鹿児島酪農協業(株)

【沖縄県】

沖縄明治乳業(株)
沖縄森永乳業(株)
(株)マリヤ乳業
(株)八重山ゲンキ乳業
元気生活(株)
(株)宮平乳業

賛助会員(14社)

王子エコマテリアル(株)
西日本衛材(株)
(株)日誠産業
日本製紙クレシア(株)
大和板紙(株)
コアレックス信栄(株)
丸富製紙(株)
(株)山田洋治商店
(株)クレスコ
ウェストロックアジア(株)
マスコー製紙(株)
ストウラ エンソ ジャパン(株)
日本紙通商(株)
国際紙パルプ商事(株)

(2018年10月末現在)



乳業メーカーと紙容器メーカーが協力し、牛乳などの紙容器にかかわる環境保全に取り組んでいます。

全国牛乳容器環境協議会

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-14-19 (乳業会館)
TEL 03-3264-3903 FAX 03-3261-9176
<http://www.yokankyo.jp>



紙パックを回収している団体のみなさまへ

学校・自治体・公共施設、商店、福祉施設など、回収ボックス設置のお願いに回ると同時に、定期的に回収できるシステムづくりをお願いいたします。

お問い合わせ先 | 全国牛乳パックの再利用を考える連絡会(全国/パック連)
TEL. 0554-22-3611 FAX. 0554-56-9216
<http://www.packren.org>

回収先がわからない時は、地元自治体・行政窓口にお問い合わせください。



本誌は環境へのやさしさに配慮して、植物油インクを使用しています。